岐阜大学
キャリア
センター
ニュース

Career Center News

No.7

2013.8

URL http://www1.gifu-u.ac.jp/~career/

巻頭言

「キャリア形成」学修

廣田 則夫
教学担当理事
副学長

本学に「キャリアセンター」が設置されて，２年半が経つ。センターは，それまでの「就職支援室」を取り込んだ形で設置され，大学設置基準に示されるように，「学生の社会的及び職業的自立を図る能力を培うことができるように」キャリア形成支援に繋がるキャリア教育が，新たなミッションとして加わった。

ところで，そもそも「キャリア」（Career）とは，どのような概念であろうか。Wikipedia（https://en.wikipedia.org/wiki/Career）では，*OED*（*Oxford English Dictionary*）の定義を借りながら，その定義を次のように与えている。

Career is defined by the Oxford English Dictionary as a person's "course or progress through life (or a distinct portion of life)". In this definition career is understood to relate to a range of aspects of an individual's life, learning and work. Career is also frequently understood to relate only to the working aspects of an individuals life e.g. as in career woman. A third way in which the term career is used to describe an occupation or a profession that usually involves special training or formal education, and is considered to be a person's lifework. In thiscase "a career" is seen as a sequence of related jobs usually pursued within a single industry or sectore.g. "a career in law" or "a career in the building trade".

（つまり，一つには，「個人の一生を通じての（進歩の）過程」つまり，「人生」そのものであって，生活・人生，学び，労働の全体に関わる。また，人生のうちの「労働」の面に焦点を当てて解釈される場合もあり，さらに，専門的な訓練あるいは学歴と関わる（専門的な）職業を表す場合もある。この場合，特定の会社・部署，あるいは特定の分野などでの一連の職務，経歴と同義と考えることが出来る。）

したがって，「キャリア教育」は，広義には，生涯に亘る教育であり，大学での学び自体がその一部に過ぎないものであろう。その意味では，大学での講義の一部を取り立てて「キャリア教育」と呼ぶ必要は無いのかもしれない。ただ，いわば当たり前のものが，取り立てて問題にされるには，それなりの理由がある。それは，「今，小・中学校で学ぶ子供の多くが未だ名前すらない職業に就くだろう」と米国のDigital Innovator（そもそも，この肩書き自体が，これまでなかった。）Cathy N. Davidsonが描写する現代（未来）社会にあって，18歳で高校を卒業したての若者が，自分の将来設計をしっかりと立てて大学に入って来る割合がどれだけあるかという根本的な問題と，おそらく（一部）そこから生ずるであろう，就職後数年で「ミスマッチ」を理由に離職・転職する若者が増えてきたという社会現象が理由であろう事は，容易に推察できる。

とすれば，「キャリア」センターの役割は，進路指導・就職支援も大事であろうが，学生の自己発見を社会とのかかわりから支援すること，つまり，学生が大学で様々なことを学ぶ過程の中で，社会との関わりを体系的に経験する機会を提供していくことであろう。インターンシップもその一つである。

学生諸君には，講義・授業だけでなく，岐阜大学のあらゆる学びの機会を活用して，自己発見に努め，未だ名前の与えられていない（もしかすると，イメージさえ浮かばない）将来の職業に向かって，大学を自己研鑽の場として学修・研究に励んで欲しい。

● キャリア教育の実際と課題 ●

自分らしいキャリア設計Ⅰ

益川 浩一
キャリアセンター副センター長

「共同社会人取材」の様子

「自分らしいキャリア設計Ⅰ」は，望ましい職業観・勤労観及び自己の個性を理解し主体的に進路を選択する能力・態度等「自分らしいキャリア設計」に必要な基礎的知識・技能，及び，「社会人基礎力」，とりわけ「成長意欲」・「主体性」を習得することを主な目的とした授業です。学習内容は，概ね以下のとおりとなっています。キャリア設計の大切さ，キャリア設計の基礎，共同社会人取材，自己理解，外部環境（社会・企業等）の理解，将来のためのスキルアップ・ブラッシュアップ・自分づくり，仕事の実際，仕事探究等々。本授業を進めるにあたって，特に留意ないし工夫している点があります。

第一に，受講者である学生の皆さんが，「現実の問題に向かい，自らが課題解決の主体となり，自らの行動の変容を促し，学習内容を実践することへと結びつけていく」ことが重要であると認識し，こうしたことを実現する上できわめて効果的であるといわれている「学習者参加・体験型学習」のアクティビティを学習方法として積極的に採り入れました。学生の皆さん自身が「動く・触れる・書く・話す・つくる・調べる・考える」といったアクティビティを積極的に採り入れたワークショップ・ディスカッション・討議を積極的に導入しました。

第二に，「働く」ことの意味について学生の皆さんが「自ら気づき，行動する」ようになるためには，「多様・多彩な人（学生相互，教員，社会人・職業人，地域住民等）との出会い・触れ合い・関わり合い」を深め，自らの人生観や世界観，職業観，認識を広げ深めるとともに，他者との関わりの中で自らを価値化し，肯定し，多彩な人間関係を自らの内に蓄えていくことが必要であると考えたので，大学外部から多彩な講師陣を招聘し，指導してもらうこととしました。「共同社会人取材」の講義は，その最たるものです。「共同社会人取材」では，受講者がグループで地域の企業経営者にインタビュー調査を行っています。「KJ法を用いたワークショップによるインタビュー調査項目設定（事前学習）」から「実際のインタビュー調査」，そして，「インタビュー調査結果の成果発表（事後学習）」をあわせて行い，こうしたことを通して，「多様・多彩な人との出会い・触れ合い・関わり合い」を深め，自らの人生観や世界観，職業観，認識を広げ深める契機としています（「地域連携・人（ひと）循環型」学習）。

第三に，毎回の講義後に，以下の文章を完成させる形で，授業内容の「振り返り」（リフレクション）をAMS「掲示板」上で行い，それをもとに，受講者相互の意見交換を行っています。また，こうした意見交換を受けて，必要に応じて講義担当者からフィードバック・アドバイスを行っています。

・私が学んだことは…。・私が気づいたことは…。・私が驚いたことは…。
・私がわからなかったことは…。・これからは…。

第四に，本講義を通して習得したこと・学んだことを踏まえて，自らのキャリア設計についての考えをより一層深めるため，「私の宣言書」と題して，「学生生活を今後どのように前向きに過ごしていくか。」についてのレポートを課しています。

受講生の「授業評価」結果を見ると，「自分が成長するために必要な要素が詰まっていた」，「将来に役立つ授業だった」などの肯定的な評価が多く寄せられ，受講生のなかに「成長意欲」や「主体性」が芽生えてきたことが実感されます。今後，受講生には，本講義で身につけた「成長意欲」・「主体性」を基底として，「気づき」にとどまらず，「行動」にまでつなげていくことが期待されます。

● キャリア形成支援 ●

GULIPの推進状況と開講式について

廣瀬 幸弘
キャリアセンター特任准教授

「岐阜大学長期インターンシッププログラム」（Gifu University Long-term Internship Program：GULIP）とは，文部科学省の産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」により，岐阜大学が採択された教育プログラムです。

地域のリーダーには，リーダーシップ能力はもとより，地域社会の問題を探索し，発見し，解決する能力が要求されます。これらの能力の基礎になるのが，基礎的および専門的知識や技能，論理的思考力，創造力などです。また，企業や組織ではプロジェクトを実践する能力および改善・改革する能力が求められています。さらに，グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力・折衝能力なども要求され，独立心旺盛な学生に

とっては，起業力も必要となってくるでしょう。

これらの能力を育成するため，長期インターンシッププログラムを含む，学部・大学院博士課程前期課程の学生を対象とした教育プログラムが「岐阜大学長期インターンシッププログラム」（略称：GULIP）です。

GULIP開講式

本プログラムの概要は，以下に示した通りですが，2013年度については，本プログラムのパイロットスタディとして，チームで問題を発見し，課題を解決するPBL型（Project-Based Learning）で約半年間の教育プログラムです。

①長期インターンシッププログラムとして，企業や組織から与えられた課題を，チームで取り組むことによりその問題を発見し，課題を解決する約半年間のPBL型の教育プログラムです。

②チーム構成としては博士課程前期課程修士１年生（工学研究科または応用生物科学研究科）の学生をリーダーとし，学部生（全学部対象）の学生を組み合わせて，１チーム約６名から７名の文理融合型の混成チームを形成いたします。

③企業での通いを原則とせず，参加学生が企業で実際に研修する期間は，５日から10日間程度の比較的短期間とします。

④後期の授業として，週に１回，１コマ（90分間），チームが集まり，課題解決に向けての検証，企業に対する中間発表，最終プレゼンテーションへの準備等へのグループワークを実施します。

⑤11月中旬に中間発表，12月中旬から後半に企業や組織での最終プレゼンテーションを実施いたします。

⑥プログラムの事前と事後に教育効果等のアセスメントを実施し，２月末までにチームでの最終報告書を提出させます。

８月２日（金）に本学の全学共通教育棟多目的ホールにて開講式が開催されました。開講式では，本学の副学長（教学担当理事）の廣田則夫先生が開講のご挨拶をされ，PBL課題を提供された地元企業や岐阜県庁商工労働部および本学キャリアセンター（合計７組織）のご担当者から課題について紹介されたのち，本プログラムを受講する大学院生・学部生48名を代表して，工学研究科１年の池谷さんと応用生物科学部３年の大嶽さんが決意表明いたしました。最後にキャリアセンター長の佐々木実先生より激励のお言葉をいただき，開講式を終了いたしました。

● キャリア形成の自主的活動 ●

学生企業展の歩みと計画

飯田 潤
地域科学部３年
学生企業展実行委員会実行委員長

学生企業展

「岐阜大学学生企業展」は岐阜大学の学生が主体となり合同企業説明会などを企画・運営していく，岐大生の就活を応援する学生団体です。岐大生が企業とより良い出会いを果たせるように，またより成長ができるように，今年度の学生企業展も新しいメンバーと共にスタートしました。

11年前，「自分たちの就職活動に対して何か大きな働きかけをしたい」と考える有志の集まりで始まった学生企業展ですが，初めは本当に小規模なものでした。学内の第一体育館を会場とし，来ていただく企業を探すことからの出発でした。最初から信頼を得ることは困難ですが，着々と働きが認められ，数十社であった参加企業数は昨年度194社にまで至りました。

そのように規模を拡大してきた学生企業展ですが，学生ならではの工夫を凝らすことも忘れてはいません。12月に行われる合同企業説明会の前には４つの就活セミナーを開催し，就活が本格化する前に個々の不安を取り除くことに努めてきました。就活に対する不安というのは同年代だからこそわかるものがあり，その点が他の企業展にはない当学生企業展ならではの大きな特徴でもあります。昨年度はそれぞれ「社会人との交流」「自己分析」「グループディスカッション対策」「マナーの習得」をセミナーのテーマとし，実践的な内容にすることで自然と自分の長所や短所を見つめられるようにしました。

今年度も同内容のセミナーを考えており，昨年度の反省を踏まえたうえで参加者の満足度が高いものとなるよう計画しています。もちろん合同企業説明会も例外ではなく，会場を岐阜市文化センターへと移し，FacebookやTwitter，HPを有効活用してPRするなど，新しい試みにも取り組んでいます。本格的な就活が始まるのはまだ先の話になりますが，学生向けのスローガンとして「始まる！君だけのSuccess Story」を掲げ，岐大生が就活を足がかりに成功への道を歩んでいけるよう，今年度も全力でサポートしていきます。

● キャリア形成の自主的活動 ●

「学生が集えるカフェ Repos cafe」について

山田 百香
地域科学部３年

これから開店　準備ＯＫ！

岐阜大学の大学会館２階，生協中央店の隣にある，Repos（ルポ）というお店は，昼間はラーメン屋さんとして，多くの学生が利用している生協の食堂です。そんな食堂を，夜間にカフェとして利用できないかと考え，学生のための場を提供しようというコンセプトで，今年の４月からオープンしました。

このカフェの運営スタッフは，経営に興味がある学生が集まって作られました。経営に興味はあるけど，机上で学ぶだけでは物足りない。自らの体で実践する中で経営というものを身をもって学びたい。学生のうちにしかできないことを思い切ってしてみたい。そんな中，キャリアセンターの「学生支援プロジェクト」を知り，私たちのこの思いをサポートしてくれるのではと考え「学生が集えるカフェづくり」を始めようと思いました。カフェを大学内で始めるにあたって，大変だった点もいくつもありました。経営に興味のあった有志の数人で始めたため，少人数で色々とやることを分担しました。メニューの値段設定から，仕入れについて，スタッフのシフトなども自分たちで考え，営業に辿り着きました。

営業が始まって，今は４か月ほどですが，お客さんも安定してきて，学生の方にスペースを利用してもらえていると思います。来店してくださる学生の方の中には，一人で読書や勉強をする人もいれば，数人で勉強会をしている人もいます。授業終わりやサークル終わりに立ち寄って，普通のカフェのように談笑を楽しむ人たちもいました。学生が運営しているカフェということに興味を持っていただき，店員がお客様と言葉をかわすこともありました。FacebookやTwitterなどでの，宣伝活動や，チラシの配布なども行い，カフェの活動状況や内容，メニューの更新などを発信してきました。ただ，まだすべての学生や教員の方に知っていただけている状況とは言えず，もっとより多くの方に利用してもらえたら，と思います。

これまでこのカフェを仲間たちと一緒に経営してきて多くのことを学ぶことができました。この経験を，またどこかで生かしていきたいと思います。また，自分たちのした活動が後輩たちにも受け継がれたり，参考になっていってほしいと思います。

学生ボラネットについて

児島 功和
キャリアセンター特任准教授

学生ボラネット窓口の様子

学生ボラネットは，岐阜大学生のボランティア活動を支援している団体です。具体的には，大学会館１階にあるキャリアセンターにて，原則水曜午後１～５時の間で学生スタッフとキャリアセンター教員が，「ボランティアに興味あるのですが，どんな活動がありますか？」「〇〇〇に興味があってボランティアをしたいのですが，そのような情報はありますか？」という学生の相談を受けて，ボランティアを紹介する活動をしています。

ところで，「大学での学びにどのような意味がありますか？」という問いには，様々な答えがありますが，「視野を広げるため」というのもその一つではないでしょうか。大学はほとんどの学生にとって最後の教育機関になり，大学生活は「社会」を渡るために必要な力量を準備・形成する時間といえます。単に就職するために必要な力量だけではなく，「社会」を構成する市民として必要な「視野の広さ」も大学で身に付けることのできる力量といえるでしょう。学生ボラネットは，学生がボランティア活動を通じて，こうした「視野の広さ」を獲得し，更なる成長に繋がる支援をしたいと思っています。

学生ボラネットのあるキャリアセンターは就職活動中以外の学生には敷居が高いかもしれませんが，ぜひ気軽に遊びにきてください。成長のきっかけになる「何か」がボランティア活動にはあるかもしれません。

●学生サポーターの募集について●

キャリアセンターでは、学生の自主的なキャリア形成や就職を支援するために，学生目線で協力をする学生サポーターを募集しています。岐阜大学を卒業し，社会で活躍している先輩社会人へのインタビューや，先輩社会人との交流会，就職内定者による学生相談会などの開催を企画しています。１年生から修士課程の大学院学生まで，学年に関係なく気軽に応募してください。連絡はキャリアセンターまで。

キャリアセンターニュース編集委員
委員長　佐々木実（キャリアセンター長）　委員　今井　健（キャリアセンター副センター長）
委　員　酒光伸嘉（課長補佐・就職支援室長）　委員　籔田　薫（キャリアセンター参事補）

●岐阜大学キャリアセンター●
〒501-1193 岐阜市柳戸1－1
キャリアセンター ☎058-293-3393 career@gifu-u.ac.jp
就職支援室 ☎058-293-2147・3362 job@gifu-u.ac.jp